

ミツヤ産業
ヒストリー

丁稚奉公から工員養成所教官へ。
戦後、機械工具商を創業。

ミツヤ産業のルーツは、大正時代の呉市に溯ります。

創業者屋敷隆一は明治41年呉市三城通りに生まれました。

当時、屋敷隆一の家族は、神石郡（帝釈峡）から呉軍港に出稼ぎに来ていました。急速に工業都市化する呉市でミツヤ産業のヒストリーがスタートしました。

兄弟の多かった屋敷隆一は、呉市両城小学校卒業後、呉服屋での丁稚奉公に出されます。

大正15年帝国金ベン製作所へ入所。そして呉海軍工廠、昭和13年には第11航空廠へ勤務します。艦上攻撃機の油圧装置のプロとして、上海の航空隊にも派遣されました。高度な知識と技術が認められ、海軍航空廠工員養成所の教官として敗戦を向かえます。

昭和22年3月中古機械・作業工具を扱う「ミツヤ商会」を呉市東川原石町に個人創業します。同24年、ミツヤ産業有限会社を設立しました。



創業者の屋敷隆一。上海の海軍航空隊にて、愛犬と



初期型の零戦に乗っています。創業者（屋敷隆一）は、パイロットではありませんので、記念写真でしょう



創業者と妻・アキ子
新車のオート三輪で



九七式一号艦上攻撃機引き込み扉の下で整備兵たちと（左から2人目）



サングラスの男性は現社長、右端は福山営業所所長です